

# 実践しよう！～HOW TO編～


各連絡会の取り組みについてご紹介します。

## ■HOW TO編■

富山県男女共同参画推進員市町村連絡会の15の事例を取り上げ、実施に至るまでの経緯や、実施方法などをQ&A形式で解説し、

- ①概要
  - ②スケジュール
  - ③ポイント
  - ④やってよかったこと
  - ⑤課題・改善点など
- を順に紹介しています。

# 目標 男女共同参画の推進による「ウェルビーイング先進地域、富山」の実現 ～若者や女性からも選ばれる富山県を目指して～

基本目標	重点課題	基本施策
 <p><b>基本目標</b> 意識と行動のアップデート (更新)</p>	固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)の解消	(1) 固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込みの解消に向けた取組の推進 (2) 多様な選択を可能とする教育・学習の充実 (3) 人権の尊重と多様性への理解促進
	若者や女性から選ばれる職場環境づくり	(4) 就職期の若者や女性から選ばれるための対策(転入促進・定着) (5) 働き方改革の推進とテレワークなど多様で柔軟な働き方の実現 (6) 仕事と妊娠・子育て・介護との両立支援 (7) 男性の育児休業取得の促進 (8) 雇用の場における男女の均等な機会と待遇の確保 (9) 女性のヘルスリテラシーの向上
	家庭生活における男性の活躍促進	(10) 男性の家事・育児・介護参画の促進 (11) 男性が参画しやすい環境の整備
	地域社会における男女共同参画の推進	(12) 地域活動における男女共同参画の推進 (13) 男女共同参画意識の地域への浸透
 <p><b>基本目標</b> 職場における女性の活躍拡大</p>	企業に経営方針決定過程への女性の参画拡大	(14) 役員・管理職への女性の登用促進 (15) 女性のキャリアアップやネットワーク形成への支援の充実
	政策・方針決定過程への女性の参画拡大	(16) 行政における女性の参画拡大 (17) 農林水産業や商工自営業における女性の参画拡大 (18) 様々な分野における女性の参画拡大
	女性のチャレンジ拡大	(19) 起業等を志す女性のチャレンジ支援 (20) 女性デジタル人材の育成 (21) 女性の能力開発・再就職、リカレント・リスキリング教育への支援
	理工系・ものづくり分野への女性の活躍促進	(22) 女子学生・生徒の理工系分野の選択促進と理工系人材の育成 (23) ものづくり分野等での女性の活躍促進
 <p><b>基本目標</b> 男女共同参画社会の基盤づくり</p>	女性等に対するあらゆる暴力の根絶と生活上の困難への支援	(24) DV・ストーカー対策の推進 (25) 性犯罪・性暴力への対策の推進 (26) ハラスメント防止対策の推進 (27) 生活上の困難を抱えた女性等への支援
	ライフステージに応じた健康づくりへの支援	(28) 人生100年時代を見据えた健康づくり (29) 妊娠・出産への支援
	男女共同参画の視点に立った防災対策	(30) 防災分野における政策・方針決定過程への女性の参画拡大 (31) 男女共同参画の視点に立った防災の取組強化

※ I 及び II は女性活躍推進法に基づく推進計画

基本目標 I

意識と行動のアップデート(更新)

重点課題1

固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)の解消

# HOW TO① 砺波市連絡会『教えてあなたの思い』

## 概要

1. 開催日時：令和5年9月16日（土）～17日（日）
2. 会場：イオンモールとなみ
3. 参加者：約400名



## Q1

開催の経緯、テーマの選定のポイントを教えてください。

「男女共同参画」という言葉自体を認識している人は多いが、内容を理解している人が少ないことが問題であると思った。多くの方が、他人ごとであって、自分ごととして捉えていない。そこで、男女共同参画を、『自分ごと』として考え、知ってもらう機会の創出と無意識の思い込みの気づきのためとして「教えてあなたの思い」を企画、実施した。

「自分はどのようにしている？」という簡単な問いから、自分自身を考えることで「男女共同参画」の活動に参加してもらった。

## Q2

当日の内容はどのようなものですか。

イオンモールとなみで開催したため、多くの方（10代から80代の男女）に参加してもらうことができた。また、参加者は、男女共同参画を意識した生活を送っている方ではない、「無意識の方」であり、男女の役割の実態や、考え方について男女別・年代別にリアルな思いを聞くことができた。

### 【質問内容】

- Q1 家族内で「一番権限がある」のはどちらですか？
- Q2 職場内で「一番権限がある」のはどちらですか？
- Q3 あなたの家庭において「主に誰が家事」をしていますか？
- Q4 あなたの家庭において「主に誰が育児」をしていますか？
- Q5 あなたの周りで「生き生きと過ごしている」のは誰ですか？
- Q6 あなたが「次に生まれ変わる」としたら？

### 【回答方法】

各質問に対して、「男性」、「女性」、「どちらとも言えない」のいずれかにシールを貼って回答してもらう。

参加者からは、「そうそう」「え～～そんな事思ってたの？」「みんなと違うわ～」などなど、色々な声を聞くことができた。400名以上の方に参加していただき、パネルはシールでいっぱいになった。

## <スケジュール>

順序	時期	内容	詳細
1	5月	調査研究委員会	実施内容を協議
2	8月	調査研究委員会	実施内容を決定 スケジュールを調整
3	9月	当日	「イオンモールとなみSDGs フェスタ2023」に参加、アンケートの実施

## ポイント（工夫した点）

- ・ 簡単で答えやすいが鋭い内容を選別
- ・ 回答数を少なく絞った事で気軽に参加できるように工夫した。
- ・ 男女別・年代別で回答内容が分類し、それぞれの思いの違いがすぐわかる回答枠にした。
- ・ パネル化で見やすく答えやすいようにした。
- ・ イーゼル・パネル式セッティングで優しい雰囲気ディスプレイにした。
- ・ 回遊式で回答者同士が混み合わない会場作りにした。
- ・ 推進員のソフトな声かけや対話で回答者を上手に促した。
- ・ 粗品を用意したことで、声かけのきっかけ作りに役立った。

## 課題・改善点

- ・ 「男女共同参画推進活動」の硬いイメージは未だ抜けていない
  - どこか「他人ごと」を感じる
- ・ そもそも「男女差」の問題にとどまらないにも関わらず名称が変
- ・ まずはキャッチーで親しみやすい愛称(呼び名)があると良いと思う
- ・ 今回のアンケート企画は1回完結では無い切り口を変えて多々ある問題を掘り出し「見える化」する取り組みをするべき

\* 諸々ある問題を「意識外の人」に「意識してもらおう機会」を提供する活動こそがこの会の活動として大切な役割だと思う。

## やってよかったこと

- ・ 「アンケート内容」について、調査研究委員会メンバー全員で意見を出し合い(皆さんがプラス意識で考えて、より良い方法への意見や協議が多数出る中)総意の元で実施できた事が素晴らしい成果につながった
- ・ 公の場でのアンケート調査が民意を浮き彫りにできた。
- ・ 実施当日のサポートを推進員全員で行うことで、スムーズに調査ができた事で参加意識の高まりを感じられた。
- ・ アンケート実施後、アンケート回答パネルを他地区での展示にも活用でき「男女共同参画活動」への意識付けに大いに役立った。(アンケート結果パネル展示を重ねる事で意識向上・問題や課題を知るきっかけが作られた。)
- ・ 他地区でも同手法によるアンケートを実施するなど活動が広がった。



# HOW TO② 立山町連絡協議会『立山町女子会』

## 概要

1. 開催日時：令和5年10月14日（土）
2. 会場：立山町元気交流ステーションみらいぶ
3. 参加者：40人
4. 講師：経田 博子氏
5. 参加費用：無料

## Q 1

開催の経緯、テーマの選定のポイントを教えてください。

「私もできるアクション！家庭が変わる、職場が変わる、地域が変わる」というテーマを設定し、立山町の未来を考える女子を増やすべく開催しました。

女性だけのイベントとしたのは、現在でも女性への性差別やアンコンシャスバイアスな状況があり、そういったものを解消するために家庭や職場、地域等で男女共同参画社会を目指す一員になってほしいと思ったことと地域で情報を共有したり、話し合ったりできる女性同志の顔見知りを増やしてほしいと考えたからです。

また、東京都豊島区のF1会が同様の企画で豊島区を活性化させ、住みよい街へと復活させたことにも影響を受けました。

## Q 2

当日の内容はどのようなものですか。

当日はクイズとグループワークも含めた講演会を行いました。

参加者のほとんどが会社や地域で役職に就いているわけではない、いわゆる一般の方々であるため男女共同についての知識はほとんどありません。そこで、導入としてクイズ（女性の就業率や男性の家事時間、DVの相談件数等々）を出題し、富山県における男女共同の現状を町連絡協議会会長が解説しました。

また、講師として経田 博子氏に「「わたしも、あなたもOK！な生き方」～自分を信じて、相手も認めて～」と題し、講義していただきました。

立山町女子会は「家庭等で男女共同参画社会を目指す一員になってほしい」ということが開催目的のひとつですが、現代には自己否定・他己否定する考え方が一定数おり、それが社会で活躍することを阻んだり、ひいては生きづらさにまでつながったりしています。

しかし、他者との違い受け入れることで、互いに協力し合い、10年後の未来には一人ひとりが自ら進んで行動を起こすことができる立山町女子を目指すきっかけになったと思います。





## <スケジュール>

順序	時期	内容	詳細
1	4月	原案決定	実施内容を協議、決定
2	5月	テーマ等の決定	テーマ及び講師決定
3	6月	講師・日程決定	講師に依頼。また、開催日時の決定
4	7月	開催告知	町HPやSNS等での告知
5	8月	チラシの作成 参加者募集	役場庁舎や公民館等に設置 参加者募集
6	9月	役場広報に掲載	役場広報に掲載

## ポイント（工夫した点）

町内での顔見知りを増やすことも目的のひとつなので、参加者を町内在住もしくは町内事業所に勤務する女性、かつ対象年齢を15歳以上に限定しました。また、講義にグループワークを取り入れ、参加者同士が話す場面をつくりました。

一方で、参加者の多くが男女共同参画についての知識がほとんどないため、クイズや昨年7月に実施したアンケート（夫は外で働き妻は家庭を守るべき）調査で町や県の状況を説明しました。

※アンケートは、昨年7月に「立山まつり（商工会主催）」という祭事に参加し、来場者へ調査

## やってよかったこと

町連絡協議会では毎年6月の男女共同参画週間や町行事への参加などで啓発活動を行っていて、広く不特定多数の方への発信はしてきたものの時間や場所の制約もあり、踏み込んだ内容の紹介ができずにいました。しかし、今回はまとまった時間で基本的な知識から立山町女子として目指してほしい姿まで紹介することができ、男女共同参画社会を目指すためのきっかけになれたのではないかと思います。

また、参加者からは「他の方々と話をする機会があり良かった」と感想を言っていました。

## 課題・改善点

講演講師と直接のやり取りができず、打ち合わせ不足でした。それにより、機器の準備に慌てたり、主催者側と参加者が意図するテーマにズレが生じたりし、グループワークが十分できませんでした。

また、参加者の募集は実施2か月以上前から、町HPやSNS、広報掲載、役場や公民館でのポスター掲示など考えられる手段はとりましたが、参加者集めに苦労しました。PRする媒体以外にも、見直す点があるかもしれません。

参加募集を15歳以上としましたが、試験期間中であつたため学生世代の参加はありませんでした。開催時期を検討したいです。

# HOW TO③ 黒部市連絡会 『夢を叶える言葉のチカラ』

## 概要

1. 開催日時：令和5年11月26日（日）
2. 会場：くろべ市民交流センター「あお一よ」
3. 講師：(株)ジェイ・バン 稲場 真由美 氏
4. 参加費用：無料

## Q1

開催の経緯、テーマの選定のポイントを教えてください。

「自己肯定感を高める伝え方・受けかた」という稲場講師の初めてセミナーがとても好評だったため、同じ講師で全く新しいテーマで開催する事になりました。今の現状、夢を持ってない人がほとんどではないかと思い、もし夢を持てるようになれば仕事・職場でも目標を持って挑戦する原動力を育てられるようにプライベートでも前向きに挑戦できるのではないかと思い、「夢を叶える言葉のチカラ」のセミナーを開催しました。

## Q2

当日の内容はどのようなものですか。

稲場講師の第2弾として「夢叶える言葉のチカラ」セミナーで夢の引き寄せができるようになる方法を学びました。失敗が怖い、立ち直りが遅いといった自己肯定感が低い方でも自分ならできると思える魔法の言葉があることを学びました。

- ・引き寄せの法則 十～したい 一～したくない
- ・夢の引き寄せ 夢・目標を持って動くに必要な情報や協力者にどんどん出会える
- ・夢実現の5段階

1 夢を持つ（なんでもよい）

2 イメージして話す

3 目標・計画を書く

4 決断・チャレンジする

5 学ぶ・気づく

- ・夢を叶える受けとめ方

人の悩みは出来事そのものではなく、出来事の受け取り方によって生み出されたものであり、「受け取り方を変えれば悩みはなくなる」という考え方

## <スケジュール>

順序	時期	内容	詳細
1	8月	定例会	セミナー内容の決定
2	8月	定例会	日時・場所の決定
3	8月	役員会	講師依頼
4	10月	参加者募集	チラシ・SNSなどで募集
5	11月	当日	当日



## ポイント（工夫した点）

今回のセミナー開催場所となった黒部市「あおーよ」は昨年できた施設で会場の大きさ、施設の設備などの下調べから始めました。セミナーは2回目だったので準備は万端でした。

- ・セミナー内容にワークショップがあり、テーブルの配置を気を付けました。
- ・SNSはFacebookだけではなく、Instagramでも告知しました。
- ・チラシ、ポスターの内容・色使いなどは人の目に止まりやすいように工夫しました。

## やってよかったこと

最初は真剣な表情でお話を聞いていた参加者の皆さんと推進員でしたが、ワークショップと稲場講師の楽しいトークでみんなが笑顔になり、会場が賑やかな雰囲気になりました。自己肯定感を持つための方法を知り、自分ならできる！！という気持ちを持つことができたのではないかと思います。参加者から一人でも夢を叶えたという人が出ればうれしいです。

## 課題・改善点

今回はセミナーの参加者の年齢が40歳以上が多数だったので、もっと若者や子育て世代にも興味のある内容を選びたいと思いました。



基本目標 I

意識と行動のアップデート(更新)

重点課題3

家庭生活における男性の活躍促進

# HOW TO④ 魚津連絡会 『はじめましてのパパ友交流会』

## 概要

1. 開催日時：＜第1回＞令和5年10月29日  
＜第2回＞令和5年11月19日
2. 会場：魚津市本江地域交流センター
3. 参加者：＜第1回＞8名、＜第2回＞5名
4. 講師：なし
5. 参加費用：なし



## Q1 開催の経緯、テーマの選定のポイントを教えてください。

推進員の活動の一環として、男女共同参画に関して学習する中で、家事や育児に関わる時間が女性に極端に偏っていることを知りました。魚津市では令和5年2月から、男性が育児休業された際に補助金が交付されています。以前に比べて、男性の育児休業取得は増えてきたと感じ、今後より多くの男性が育児休業を取得することで、こういった問題を解消することにもつながると思われまます。

一方企業においては、男性の育休取得のしやすさには職場によってまだ差があるのが現状です。そのため、育休取得後は男性を取り巻く環境が一変し、育児に関する情報や具体的な支援を受ける方法を知ることが手探りの状態であると考えます。例えば、保育園の送り迎え等で、ママ友同士がお互いに子育ての話等の情報交換をしているのに対して、パパ達はその話の輪に自ら参加している姿はあまり見かけません。

このように、もしかしたら育休中の男性は意外と孤独で、家庭や子育て、自分自身の今後の生活についての悩みを抱え、ストレスも大きいのではないだろうか？また、育休取得後の新しい育児中心の生活環境において、気軽に悩みを話せるような友達がもし身近にいたら、大変心強いのではないかと感じました。そこで今回、パパ友の交流会を開催し、主体的に家事や育児に参加する男性を支援し、女性の幸福感や安心感にも繋げたいと考えました。

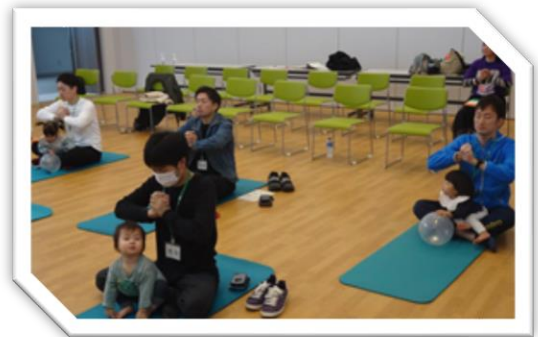
## Q2 当日の内容はどのようなものですか。

＜第1回目＞ 10/29（日）AM10：00～11：30

- (1) ヨガで心身のリラックス 日頃のストレスから解放！（約40分）
- (2) トークセッション（約20分）
  - ・先輩パパの子育て体験談…市内企業に勤務する育児休業の経験がある男性二名のお話
- (3) 参加者同士のフリートーク（約30分）イベント終了後にライングループを作成（参加自由）

＜第2回目＞ 11/19（日）AM10：00～11：30 ※参加者は第1回目と同じメンバー

- (1) 簡単クッキング（約40分）ギョウザの皮をつかった簡単なアップルパイ
  - (2) 参加者同士のフリートーク（約40分）
    - ・サイコロトーク「育児の悩み事」「妻のこんなことに困ってます」「オレ流自慢の育児」等
- ※1、2回目共に、安全面については推進員見守りの中、お子さんと一緒に活動に参加されました。



## <スケジュール>

順序	時期	内容	詳細
1	4月	第1回企画会議	実施事業の検討（イベント概要、事業目的等について）
2	5月	第2回企画会議	事業実施内容の検討 （実施時期、会場、実施規模、具体的な内容等）
3	8月	第3回企画会議	事業内容の詳細について協議 企画書の作成（タイムスケジュール、予算等） 募集方法の確認（市広報、HP、チラシ内容） 講師依頼（ヨガ、先輩パパ）会場手配等
4	9月	参加者募集開始	広報うおづ9月号掲載、魚津市HPにて募集サイト開設 市内保育園や児童センター等にチラシ配布
5	10月	最終ミーティング 現地確認 第1回目の実施	10/19役割分担の確認、参加者案内、報道案内 10/27現地でのリハーサル（スペースの確認等） 10/29 第1回目の実施、ライングループの作成
6	11月	現地確認 第2回目の実施	11/14 現地リハーサル（お菓子試作、調理器具、安全の確認） 11/19 第2回目の実施

## ポイント（工夫した点）

- ・参加申込や事後のアンケートをオンラインで行えるよう、チラシにQRコードを掲載しました。
- ・1回目はハローウインの時期であったため、推進員は各自仮装をして、お出迎えをしました。
- ・パパ同士が初対面であったため、会話のきっかけ作りや緊張緩和のため、ヨガやお菓子作り等の体験活動を先に入れ、打ち解けやすくなるようにしました。
- ・子連れ参加をOKとすることで、母親の負担感が生じないよう配慮しました。
- ・ヨガの間はオルゴール音楽を流したり、小さなおもちゃを用意したりして、お子さんもパパの側で安心して過ごせるように配慮しました。講師にも、親子で一緒にできるヨガをリクエストしました。
- ・お菓子作りは、安全面の配慮から包丁や火を使わずに済むように、事前にリンゴのカットや加熱処理等は済ませておきました。
- ・パパ同士が気楽に話できるように、サイコロの出た目で話すテーマを予め決めておきました。
- ・ライングループに参加を促すことで、パパ同士の情報交換ができるようにしました。

## やってよかったこと

- ・参加者アンケートを行った結果より、「他のパパの子育ての体験を聞いたことが、大変勉強になった」「自分も同じ悩みをもっていた」との回答が多数ありました。参加者同士が日頃の家事や育児の悩みを共感できる場となって、嬉しかったです。
- ・ヨガは大変好評でした。「ヨガは女性がするもの」という先入観があり、興味はあってもなかなか体験できなかったため、初めて体験し心身ともにリラックスできたそうです。
- ・パパ達がお子さんと一緒に活動に参加する中で、真剣なまなざしでお互いの話を聞いたり、お子さんに愛情をもって関わったりする姿を見て、子育てへの情熱を感じることができました。
- ・県外から魚津市へ仕事で来ている男性も参加しており、育児環境作りに役立ったと感じました。
- ・市の担当者から、「子育て中の男性を対象としたイベントは、とても貴重で先進的」と言われ、上手くいくのか半信半疑でしたが、参加者からは大変好評で、新聞にも大きくとりあげられ、やってよかったと思いました。何よりも担当者と推進員でアイデアを一つ一つ形にしていくのは、実施した自分達も楽しく、男女共同参画について理解を深める、良い経験となりました。

## 課題・改善点

- ・市の広報紙、HP、FBやインスタ等、様々な手段で参加者募集をしましたが、中々集まらず、最終的には推進員の口コミ依頼で参加された方もいました。イベント内容は満足されていましたが、もう少し参加者が多い方が良いとの感想もあり、参加者の確保が一番の課題だと思います。
- ・この交流会に興味がある男性は少なからず存在すると思うので、それらのみなさんが参加しやすい日時や会場の設定や、また、子連れ参加でも、お子さんを安心して預けることができる体制を設けたりして、パパだけで取組める簡単なスポーツ等を行う等の工夫が必要だと感じています。
- ・「パパ友交流会」を継続して行うことで認知度を高め、より多くの子育てパパが参加し、大きな「パパ友ネットワーク」を作ることができれば良いなと感じています。

基本目標 I

意識と行動のアップデート(更新)

重点課題4

地域社会における男女共同参画の推進

## 概要

1. 開催日時：令和5年8月19日（土）
2. 会場：富山市婦中町朝日地区センター
3. 参加者：26名
4. 講師：笹山 宗博氏（味の笹義代表取締役）
5. 参加費用：無料

Q1 開催の経緯、テーマの選定のポイントを教えてください。

富山県男女共同参画推進員 富山市連絡会では、男女共同参画意識の普及啓発活動のため各地でイベントを行っております。

コロナも弱まりようやく普段の地域行事や学校行事が再開されてきましたが、まだまだ集まって楽しむ機会が少ないと感じ「料理教室」を企画いたしました。

Q2 当日の内容はどのようなものですか。

午前中の涼しい時間帯に公民館に親子で集合していただき、当日に作るます寿司に関する講話を笹山先生にしていただき、理解を深めた後、実際にます寿司弁当を個人で一つずつ作る体験をしました。

親子で楽しく作ることが出来て、親子の絆が深まりました。

出来立てのお弁当は家へ持ち帰って、ご家族に披露しエピソードなどを話し美味しく頂きました。

## <スケジュール>

順序	時期	内容	詳細
1	5月	実施内容	日時・場所・内容を決定、講師依頼
2	6月	チラシ作成 配布	チラシを作成して、参加者募集
3	7月	打合せ	当日の流れの確認、必要なもの準備



## ポイント（工夫した点）

- ・親子での参加者を募るため学童保育に通っておられる子供達と保護者らに声を掛けました。
- ・多くの参加者を募るため地区外の親子にも関係者の親子にもSNSで参加を呼びかけました。
- ・食中毒にならないよう、会場はエアコンの温度管理を調整し開催しました。

## やってよかったこと

- ・親子の絆を深めて楽しい夏の思い出になりました。
- ・地域内外の人との交流を深めることが出来ました。
- ・「ありがとうございました」や「楽しかった」などの声をいただき自分も豊かになり、企画してよかったと思いました。

## 課題・改善点

- ・低学年の子供達には少し難しい作業もあり内容を検討する必要がある。
- ・自分たちで何かを作るということに、難色を示す子供や父兄がおられて参加しづらいと意見がありました。
- ・子供達は習い事多く時間が合わないとの意見がありました。



## 概要

1. 開催日時：令和5年2月25日（土）
2. 会場：救急薬品市民交流プラザ
3. 参加者：22組（親子9組）
4. 講師：射水市男女共同参画推進員
5. 参加費用：1家族200円

## Q1

開催の経緯、テーマの選定のポイントを教えてください。

当連絡会では6年前から「あったか家族のひなまつり」をテーマに、家族で楽しめる活動を実施しています。今までの活動として、さくら餅作り、マシュマロとバウムクーヘンのコラボのおひなさま作り等いろいろ企画してきました。

男女共同参画推進員として活動する中で、親子がみせる笑顔や笑い声を耳にする場面が多くありました。そのような姿を見て、推進員として親子で参加し、触れ合うことのできる活動の場づくりを積極的に企画していくことが重要だと感じ、親子で参加できる活動を企画しました。

令和4年度はコロナ禍での開催であったため、どのような活動内容にするかとても悩みました。クッキング等の食べ物を使った活動は避けつつ、参加した親子が楽しめる内容をとしました。

結果として、推進員によるひなまつり絵本の読み聞かせ、紙コップと折り紙を使ったおひなさま作りを行いました。また、男女共同参画をテーマとした「男と女のなかよしカルタ」で推進員と子どもたちが一緒に遊びました。カルタは子どもたちにも分かりやすいようなテーマのものを選びました。

親子で楽しい時間を共有することができ、子どもたちは楽しい思い出となったと思います。今後も子育て世帯をサポートできるよう活動していきたいです。

## Q2

当日の内容はどのようなものですか。

- ・推進員が交代で絵本「もりのひなまつり」の読み聞かせ
- ・親子で紙コップのおひなさまの製作
- ・射水市連絡会で作成した「男と女のなかよしカルタ」で遊ぶ



## <スケジュール>

順序	時期	内容	詳細
1	5月	役員会	事業内容の検討 あったか家族のひなまつりの内容
2	8月	事前打ち合わせ	絵本の選定とひな人形を作成し、見本を選ぶ
3	10月	事前打ち合わせ	開催案内を推進員へ送付 (絵本はもりのひなまつりと紙コップの雛人形に決定)
4	12月	全体役員会	当日参加可能な推進員と絵本の読み合わせ ひな人形の型紙作り
5	1月	役員会	チラシを配付し参加者を募集、 推進員による参加者募集活動、 市のホームページに募集案内の掲載
6	2月	開催	あったか家族のひなまつり開催 絵本読み聞かせとひな人形づくり 男と女のなかよしカルタで遊ぶ

## ポイント（工夫した点）

- ・親子で一緒に楽しい時間を過ごすことができ、親子の触れ合いの場となった。
- ・ひなまつりの工作見本をみて「かわいい」の声がたくさん聞くことができた。
- ・子どもたちにも難しくなく、簡単に作れるような工作にしたため、飽きることなく、いくつも作る親子もみられた。
- ・絵本の読み聞かせでは、ひなまつりをテーマとした子どもたちにも親しむことのできる絵本を選んだため、静かに集中して聴いていた。
- ・「ありがとう。来年もまた来るよ。」のあったかい言葉をたくさん聞くことができた。

## やってよかったこと

- ・コロナ禍での開催ということもあり、クッキング等の食べ物を使った活動は避けつつ、参加した親子が楽しめる内容を考えた。
- ・簡単で製作しやすい工作、親子が楽しくおしゃべりしながら作ることのできる工作を考えた。
- ・紙コップは扱いやすく、肌触りもよいので小さなお子さんも作ることができ、個々の思いの作品ができたのではないかと思った。事前に型紙を切っておくことで、製作をスムーズに進めることができた。完成イメージがわかりやすいように見本も多く飾った。
- ・絵本の読み聞かせ時は親子が見えやすいように椅子の位置等何度も確認した。
- ・読み聞かせの前にひなまつりの音楽を流し、雰囲気づくりをした。

## 課題・改善点

- ・PRポスターやチラシをもう少し早く作成し、活動の趣旨等、早めに推進員へ周知すれば良かったと思う。そうすることで、推進員の活動への更なる意識向上を図ることができたのではないかと思う。
- ・父親の参加が少なかったため、増えるよう啓発していきたい。
- ・「もりのひなまつり」の絵本の読み聞かせの後、参加者全員で余韻を楽しむためにひなまつりの工作を机に飾っておけば良かった。次年度からはそのようにしていこうと思う。

# HOW TO⑦ 氷見連絡会 『子ども食堂を通じて若年層への啓発活動』

## 概要

1. 開催日時：令和5年7月12日（水）12:30～14:00
2. 会場：氷見高校麗峰会館 食堂
3. 参加者：推進員他18名、生徒・教職員180名

## Q1

開催の経緯、テーマの選定のポイントを教えてください。

氷見連絡会では、長年ボランティア活動として高齢者施設へ出向いて活動してきたが、コロナ禍でまったく活動ができなくなった。そこで、新しくボランティア活動を次始めるにあたって、令和4年度一年間かけて、いろいろなボランティアを自ら体験し、ワークショップを開いて話し合いを重ねて、子ども食堂を実施しようということになった。

氷見市内には三か所の子ども食堂がすでに活動しており、主に小学生を対象に実施していた。そこで、今回は高校生を対象に実施することで、男女共同参画の考え方や子供の貧困問題を知ってもらう機会にすることとした。

## Q2

当日の内容はどのようなものですか。

どのくらいの生徒が来てくれるのか見当がつかなかったため、氷見市社会福祉協議会や、ひみキトキト食堂ネットワークの協力のもとQRコード用であらかじめ予約を取り、人数の把握をしてからカレーの準備を行った。

夏場のため、当日は朝早くから準備を行った。学校側の協力もあり、予約以上の生徒や教職員の方々が来てくれ、おかわりもたくさんあり、好評をいただいた。男女共同参画と子ども食堂の周知のためのチラシをカレーライスの提供時に配布を行った。

## <スケジュール>

順序	時期	内容	詳細
1	令和4年6月～ 令和5年2月	実施内容の検討	ボランティアの研修、体験、協議、決定
2	6月	実施内容決定	どんなボランティアをするか総会で承認
3	6月	事前交渉	学校での実施を交渉、日時決定
4	7月	チラシ配布 会場等の打ち合わせ	参加者募集と並行して会場等の打ち合わせ
5	7月	子ども食堂開催	会場設営、カレーライスの準備



## ポイント（工夫した点）

学校で子ども食堂を開催することで、多くの生徒においしく楽しい食事を提供するとともに、男女共同参画の考え方や子どもの貧困問題に関心をもってもらえたかった。そのため安全でおいしいカレーを作ることを心がけた。

氷見市内の子ども食堂でお世話をしている人に味付けをお願いし、カレーを作ってもらった。おかげでおいしいと大好評で楽しい雰囲気での食事ができた。また、事前に子ども食堂の案内も配布してもらい、関心を高めてもらった。

## やってよかったこと

参加してくれた高校生、教職員の人たちに「おいしかった。」「楽しかった。」と喜んでもらったのがよかった。また推進員が生徒たちと交流できたのもよかった。

## 課題・改善点

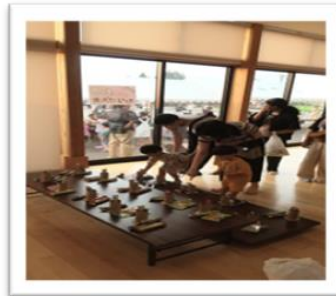
学校を会場にすることで、多くの生徒児童に食事を提供することができ、尚且つ、みんなで食事をする交流の場を持つことができ、男女共同参画の考え方を伝えることができた。しかし、これだけでは男女共同参画社会について理解することにはならないので、今後もこのような活動を継続し、もっと男女が共同で活動する姿を見せていくことが大切だと思う。

また、男女共同参画社会についての啓蒙活動として、事前に「ジェンダーバイアス」などのアンケートや「デートDV等のワークショップ」などの講座が持てれば、表面的なものだけではなく、もっと掘り下げたものになったかもしれない。男女共同参画啓蒙のパネルや写真を会場に設置してもよかったと思う。



## 概要

1. 開催日時 : ①パークゴルフ大会 令和5年7月2日  
②公民館夏祭り 輪投げ 令和5年7月29日  
③公民館秋祭り 輪投げ 令和5年11月3日
2. 会場 : ①東福寺野自然公園、②③浜加積公民館
3. 参加者 : ①25人、②約140人、③約90人
4. 景品費用 : ①8,214円、②9,080円、③10,362円



## Q1

開催の経緯、テーマの選定のポイントを教えてください。

## ①パークゴルフ大会

浜加積公民館が主催となって毎年開催されています。男女間の体力差が影響しにくく、ゲームを通じて男女問わず尊重し合えることが男女共同参画の理念に当てはまることから、毎年協賛しています。

## ②③公民館祭り 輪投げ

浜加積公民館主催の行事の中で、輪投げのお店を開いています。パパ・ママを問わず子供に投げ方を教え、景品をもらって喜び合うことで親子間のコミュニケーションを図れることから、男女共同参画の推進に繋がると考えられます。

## Q2

当日の内容はどのようなものですか。

## ①パークゴルフ大会

時期的に暑くはあったものの、雲が多く日差しはそれほど強くはなかったため、比較的プレーしやすいコンディションだったと思います。パーク内ではカコン！とボールを打つ気持ちのよい音と歓声が響き、男女ともにプレーを楽しんでいました。

男女共同参画に因み、夫婦参加者（当日は5組）に順位に応じて景品を進呈しました。

## ②③公民館祭り 輪投げ

100円で3回投げるルールで成功すればそのお菓子を渡し、1回も成功しなかった時にも残念賞として単価の安いお菓子を渡しました。

未就学児を連れてきたのが両親またはママのみだけではなくパパのみのパターンも多く、パパが子育てに参加している事例が多く見受けられました。未就学児は親と一緒に輪を投げたり落としたりし、お菓子が取れた、取れなかったと楽しんでいる様子がとても微笑ましく見えました。売上は公民館に収めました。

## ポイント（工夫した点）

## ①パークゴルフ大会

「男女共同参画の啓発」及び「夫婦でパークゴルフを勧めて家庭円満を促進する」旨のチラシを配布しました。

## ②公民館祭り 輪投げ

参加者にお菓子と一緒に啓発用のポケットティッシュ（市役所より提供）を配布しました。



## <スケジュール>

### ①パークゴルフ大会

順序	時期	内容	詳細
1	6月	打ち合わせ	浜加積公民館に協賛の意思を伝える。 参加人数を確認する。
2	6月	買い出し	景品（日用品）の買い出し。

### ②公民館夏祭り 輪投げ

順序	時期	内容	詳細
1	7月	打ち合わせ	浜加積公民館に輪投げ開催の意思を伝える。
2	7月	買い出し	景品（お菓子）の買い出し。

### ③公民館秋祭り 輪投げ

順序	時期	内容	詳細
1	10月	打ち合わせ	浜加積公民館に輪投げ開催の意思を伝える。
2	10月	買い出し	景品（お菓子）の買い出し。



## やってよかったこと

#### ①パークゴルフ大会

協賛の立場として最低限の挨拶と自己紹介が必要と考え、開会時に参加者の皆さんに男女共同参画推進員として報告用に写真を撮らせてもらいたいことを伝えたことで、プレー中の写真撮影をスムーズに行うことができました。

#### ②③公民館祭り 輪投げ

養生テープで投げる位置にラインを引き、「未就学児」、「小学1年～3年」、「小学4年以上」とマーカーで記入したことで、平等に未就学児でもお菓子をゲットできるようにしました。

## 課題・改善点

#### ①パークゴルフ大会

推進員の活動上、夫婦以外の単独で参加された方々に対し「今回は夫婦でご参加ください。」など声掛けをしても良かったのかとも思いました。一方で現在は離婚率も高く一人親世帯も多い中、「夫婦参加を善しとする」ことに疑問を感じていました。今後は何か別の切り口から男女共同参画へのアプローチがあっても良いのではとも思いました。

#### ②③公民館祭り 輪投げ

輪投げにパパが未就学児を連れている様子が何度も見られました。男性の育児休暇取得が定着しつつあり、ママの仕事も同じくらい忙しい家庭もあるせいか、今時の若いパパ達は子育てに積極的であると感じられました。そのため、男女共同参画を推進できる場としての輪投げの出店を今後も継続することが大事（課題？）と考えられました。

2時間の出店中、お菓子の単価によっては1時間程度でお菓子がなくなってしまい、並んでいた子供達が十分に楽しめなかったのではと思ったこともあったことから、限られた予算の中で購入したお菓子を2時間切らさない、且つ安くなりすぎないお菓子を準備することが課題です。

# HOW TO⑨ 小矢部市連絡会 『男女共同参画推進寸劇』

## 概要

1. 開催日時：通年（令和5年度は6回）
2. 会場：クロスランドおやべセレナホール、各地区公民館
3. 参加者：約444名
4. 参加費用：無料

## Q1

開催の経緯、テーマの選定のポイントを教えてください。

「男女共同参画」という言葉は一般の方にとっては馴染みがなく、具体的にイメージすることが難しい概念です。認知症や詐欺、介護、家事に関する具体的な場面を寸劇として演じ、観覧いただくことで男女共同参画や女性活躍を具体的なイメージを伴って意識していただけるのではないかと考えました。シナリオや小道具を自分たちで作製し、地区振興会等からの依頼で公演する機会もあり、令和5年度は計6回、444名に観覧いただいています。公演ごとに1カ月以上前から練習して、本番に挑んでいます。

## Q2

当日の内容はどのようなものですか。

第1幕では、巧妙化する詐欺の手口を紹介するとともに、家族で助け合う事で被害を防ぐ場面を演じました。

第2幕では、自治会活動に女性が参加している場面を市のマスコットキャラクターと共に演じました。

第3幕では、認知症の方が増加している現状と予防対策を高齢夫婦間のやり取りを通して重苦しくならないようにコミカルに演じました。

第4幕では、家族の介護のため為に休暇を取得した社員のフォローを男女の役割意識にとらわれることなく協力して行う場面を演じました。

第5幕では、ケガをした家族のフォローを男女の役割意識にとらわれることなく協力して行う場面を演じました。



## <スケジュール>

順序	時期	内容	詳細
1	6月	寸劇公演	子撫ふれあいきいきサロンで寸劇の公演を実施
2	7月	寸劇公演	正得地区敬老会で寸劇の公演を実施
3	11月	寸劇公演	荒川自治振興会で寸劇の公演を実施
4	11月	寸劇公演	東部地区いきいきサロンで寸劇の公演を実施
5	12月	寸劇公演	宮島地区いきいきサロンで寸劇の公演を実施
6	2月	寸劇公演	小矢部市男女共同参画市民のつどいで寸劇の公演を実施

## ポイント（工夫した点）

長寿会等の高齢の方が中心となる団体に向けて公演する場合には、認知症が進む家族のフォローを男女の役割意識にとらわれることなく、助け合って生活する場面や、詐欺の被害に合いそうになっているところを家族で協力して乗り越える場面を取り入れたシナリオで公演しています。

現役世代が中心となる団体に向けて公演する場合には、職場などの仕事中に発生するアンコンシャスバイアスに関する事例を取り入れたシナリオで公演しています。

## やってよかったこと

上記のように、観覧する団体に合った内容の寸劇を公演することで、「男女共同参画」「女性活躍」を身近なものとして感じていただくことができました。また、急速に進む少子高齢化等の社会情勢への対応として推進していく必要性についても理解いただくことができました。加えて、シナリオや小道具を自分たちで作製していくことで推進員が主体的に楽しんで寸劇の公演に取り組むことができました。

## 課題・改善点

地区振興会等を通じて公演する機会を創出していますが、特定の地区に関しては毎年公演機会がある一方、また別の特定の地区についてはなかなか公演の機会がないという状況にあり、積極的に「男女共同参画」や「女性活躍」を推進する機運の高まっている地区とそうでない地区があることが課題です。

今後は他の団体との交流を密に図ることによって、公演の機会を創出していきたいと考えています。

## 概要

1. 開催日時：令和5年9月23日（土）イオンモール砺波  
：10月末から11月上旬 地域文化祭
2. 会場：イオンモール砺波 各地域交流センター
3. 参加者：500人程度

## Q1

開催の経緯、テーマの選定のポイントを教えてください。

男女共同参画南砺市連絡会では、3つの委員会（事業委員会・広報委員会・地域交流委員会）で講成されています。このうち、広報委員会では、「地域社会や市民に対して広報を行うとともに効果的な啓発物の検討や調査及び検討を行い、連絡会会則の事業（第4条）のうち、主に（1）男女共同参画社会に関する広報活動及び実態把握に必要な調査及び研究を担当する。」と役割を掲げています。今年度は、広く市民に男女共同参画社会についての理解を深めるための啓発活動として、新しいポスターの作成と、介護に関するアンケートの作成をしました。さまざまな世代を対象に介護に関するアンコンシャスバイアスに気づいてもらうきっかけとしてもらうことが狙いであり、また、多くの人に「アンコンシャスバイアス」とは何か、を知ってもらいたく、この内容での開催を決定しました。

## Q2

当日の内容はどのようなものですか。

9月23日にはイオンモールで子育て世代を対象に、10月下旬～11月には各地域の文化祭で、地域づくり協議会と連携し、来場された皆さんに声掛けを行いながらアンケートに協力していただきました。介護未経験の方が関心を持って答えてくださったことがとても嬉しかったです。男女別や年代別でも結果に差が表れていました。イオンモールでの来場者からは、「これまでは全く気にしていなかったがこれからのことを考えるきっかけになった」という声や、「この程度しかできないのか・・・」「ぼく・わたしもこれならできる！」「介護職なので全部できます」などさまざまな感想が聞かれました。介護は身近な問題で、多くの方が関係することになると思われます。これをきっかけに、「介護」に関するアンコンシャスバイアスの気づきとなれば幸いです。また、当日は、南砺市の複数の課（こども課・エコビレッジ推進課）とコラボレーションすることにより、多くの集客にもつなげることができ、より効果的な啓発活動に繋がりました。あわせて南砺市の推進員が作成した「男女共同参画カルタ」の啓発ティッシュも合わせて配布することで、よりアンケート回答者の意識付けに繋がったと思います。





## <スケジュール>

順序	時期	内容	詳細
1	5月	第1回広報委員会	年間の行事予定を決定
2	8月	広報委員会会議	啓発ポスター・アンケートの作成
3	9月	委員長・事務局中心に啓発活動準備	ポスター印刷や当日担当割り当て、備品等準備
4	9月	イオンモール砺波での啓発活動	2日間にわたりセンターモールで介護アンケートを実施。(SDGSWEEKにあわせて) 啓発ティッシュも合わせて配布し、多くの人が来場。
5	10月～11月	各地域文化祭での啓発活動	18の地域づくり協議会で介護アンケートを実施。
6	12月	アンケート結果まとめ	広報委員長中心にアンケートの結果、とりまとめ。3月広報に結果を掲載

## ポイント（工夫した点）

- ・多くの家族連れに来場いただけるよう、HPで周知を図りました。
- ・単体だけでは集客が見込めないと考えたため、SDGSイベント（エコビレッジ推進課・こども課・南砺で暮らしません課）とあわせて開催。こども向けワークショップの傍ら、多くの保護者の方からアンケートに答えてもらうことができました。
- ・シールを貼って回答するアンケートのため、数が集まると回答していない通りすがりの方にも視覚的にわかりやすくなりました。
- ・各地域の文化祭で啓発活動を行うことにより、アンコンシャスバイアスの根強い年代にも理解してもらうことに繋がったと思います。

## やってよかったこと

地域と推進員が協力してできる取り組みであり、改めて男女共同参画とは何か考えてもらうきっかけに繋がる活動でした。

私たち南砺市連絡会は、各支部が廃止され南砺市として活動することになり今年で2年目となります。昨年はコロナ禍の影響もあり、思うように啓発活動ができないときもありました。今年度は、コロナ前と変わらない活動ができるようになり、また、あらたな活動も取り入れ、活発な啓発活動に取り組めたと思います。この男女共同参画を推進する必要のない男女平等が当たり前の世の中がくることを願いながら、引き続き活動を進めていきたいと思っています。

## 課題・改善点

作成したアンケートをさらに多くの地域に活用してもらえるよう周知が必要であると感じました。各支部活動がなくなり2年目となった今年は、活動方法が少しずつ見えてきたように思います。推進員58名の中には、具体的に何をしたらいいかわからないという声もあることから、役員を中心に方針や取り組み方法を具体的に決定し、推進員が動きやすい環境にすることが急がれると思います。また、毎年同じ取り組みをすることも大切であるが、時代に合わせて少しずつ活動内容をブラッシュアップし、「男女共同参画推進員」としての自覚を推進員一人ひとりが持てるような意識付けが必要であると感じました。

## 概要

1. 開催日時：令和5年10月1日（日）
2. 会 場：舟橋中学校
3. 参加者：250人

## Q 1

開催の経緯、テーマの選定のポイントを教えてください。

男女共同参画推進員舟橋村連絡会では、性別や年齢に関係なく誰もが能力を発揮し活躍できる社会づくりを目指し活動しています。舟橋村では毎年住民運動会が開催されています。12自治会が4団に分かれて競技に取り組み優勝を争います。その中でも綱引きは、選抜リレーと同様毎年白熱する競技です。また、綱引きは男女混合で実施されていることから、男女が共に輝ける社会の実現を目指す連絡会の理念とも一致することから、男女共同の冠をつけた競技として実施することとなりました。

## Q 2

当日の内容はどのようなものですか。

当日は、綱引きの実施前に県の推進員が男女共同参画に関する取組について紹介を行い、のぼり旗を掲げて、綱引きの様子を見守りました。参加賞として啓発品の配布と優勝チームには盾の贈呈も行いました。

## &lt;スケジュール&gt;

順序	時期	内容	詳細
1	4月	役員会	実施内容を協議
2	6月	連絡会総会	日時・場所・内容決定
3	9月	啓発品準備	啓発品の準備
4	10月	運動会	運動会本番でのPR



## ポイント（工夫した点）

男女共同参画を考える一つのきっかけとして運動会の競技に取り入れました。コロナで4年ぶりの開催でしたが、例年通りの盛り上がりとなりました。

啓発品の景品を毎年選んでいましたが、今年からは男女共同参画といえはスポンジと統一して配布を継続することで、印象付けを行いたいと思います。

## やってよかったこと

例年実施していることから、始まる前の挨拶等「今年もお願いしますね」と、声をかけられるなど少しずつ浸透してきているのではないかと思います。

## 課題・改善点

運動会の一部ということで、何かを使って詳しく説明できないので、言葉だけしか伝わらないのが課題です

今回は推進員のみで行いましたが、各自治会にも役員がおり、その人たちが地区にいるということ自体をPRしたり、その人たちに何か担ってもらう場がないのが課題です。



## 概要

1. 開催日時：令和5年10月30日（月）9時30分～15時
2. 会場：富山県高志の国文学館、富山県富岩運河環水公園、富山県美術館
3. 参加者：23人
4. 参加費用：1人2000円

## Q 1

開催の経緯、テーマの選定のポイントを教えてください。

上市町連絡会では、推進活動を地区公民館と連携して行っている地区が多く、公民館と連携することでより身近で参加しやすい企画になるよう工夫しています。

相ノ木地区においても、相ノ木公民館と連携協力して、男女共同参画推進活動を行っています。

地区の様々な年代・立場の人々が、親睦を深め、男女分け隔てなく共に活動して、つながりをつくり、絆を深められるような機会にしたいと考え、「みんなで遠足」と題した活動を企画しました。

富山県の誇る素晴らしい施設である「富山県美術館」「富山県高志の国文学館」を訪れたことがないという声をきき、相ノ木地区の皆さんと一緒に県の施設で文化の秋を楽しみたいと考え、目的地にしました。

美術館、文学館では、文化、芸術、文学にじっくりと触れ、富岩運河環水公園では、自然に親しむとともに、男女共同参画社会について学ぶ機会となるよう計画を立てました。

## Q 2

当日の内容はどのようなものですか。

秋の深まりの中、相ノ木地区の皆さんと遠足に出掛けました。

高志の国文学館では、県ゆかりの文学作品、映画作品を通じて、当時の世相、人々の暮らし、富山の自然、文化に触れました。富山県美術館では、金曜ロードショーとジブリ展を鑑賞し、ジブリ作品とその作品の制作された時代背景を示す展示物から人々の暮らしや考え方の変遷などについて学びました。ほかに、推進員から男女共同参画についてのお話をし、アンコンシャス・バイアス（無意識の偏ったものの見方）の解消や男女共同参画社会の実現のためにできることについてみんなで学んだり、考えたりする機会を持ちました。親睦が深まり、笑顔いっぱいのもとても楽しい遠足となりました。

11月11・12日に開催された相ノ木公民館まつりにおいて「みんなで遠足」活動報告と男女共同参画推進啓発を兼ねてパネル展示を行いました。地区の幅広い世代の地域住民のみなさんに向けて男女共同参画とは何か、その取組や本質、女性に対する暴力をなくす運動、虐待防止、アンコンシャス・バイアスの解消のためにできることなどの周知を図りました。



## <スケジュール>

順序	時期	内容	詳細
1	7月	打ち合わせ	日時・場所・実施内容の決定。
2	9月	チラシの作成・配布	チラシ作成し、配布。参加者募集。
3	10月	実施前打ち合わせ	当日の行程、必要物品の確認、参加人数などの確認。保険加入など。
4	10月	10月30日（月） 遠足当日	みんなで遠足～秋散策・富山県高志の国文学館・富山県美術館～
5	11月	掲示物の作成	公民館まつりにおいて啓発をするための掲示物の作成
6	11月	公民館まつりで展示	啓発展示

## ポイント（工夫した点）

- ・相ノ木地区内の全町内会にチラシを回覧配布し、広く参加者を募集した。
- ・公民館共催事業として開催し、企画運営を連携協力して実施した。
- ・相ノ木公民館の公民館まつりで啓発展示を行い、男女共同参画についてさらなる周知を図った。

## やってよかったこと

- ・「男女共同参画」という言葉については、ほとんどの人が知っているが、「男女共同参画」は、自分には関係がない、女性のための活動、若い人が考えることなど、そのとらえ方は、様々でした。そこで、推進員からは、「男女共同参画」を自分事としてとらえることができるよう身近な話題を取り上げてお話ししました。「男女共同参画」について学び、理解を深める機会になったと思います。
- ・男女共同参画社会の実現がよりよい地域社会づくりにつながることを一緒に考えることができ、うれしく思いました。
- ・参加された方から、「また来年も（遠足に）参加したい」「今度は、水墨美術館に行ってみたい」「推進員さんのお話、わかりやすかったよ」「子どもの個性や特性を性別で決めつけてしまったことがあったかもしれない」など、うれしいことばをいただいた。

## 課題・改善点

- ・「男女共同参画」を女性のためのものという印象を持つ方もおられ、参加を控えてしまう方もおられたと聞きました。老若男女問わず誰でも「男女共同参画」推進啓発活動に参加しやすいような企画、活動内容や参加募集方法を工夫したいです。
- ・地域における行事やイベント、町内会などの集まりや家庭、学校、職場など様々な場面で機会をとらえて啓発活動を行っていきたいと思います。

## 概要

1. 開催日時：令和5年12月7日
2. 会場：入善町上原産業展示会館
3. 参加者：33人

## Q 1

開催の経緯、テーマの選定のポイントを教えてください。

世間のトレンドが男女共同参画社会という基本的概念の定着化というよりダイバーシティやLGBTQといったような横文字文化に飛びつく風潮がある中で『それは男女共同参画社会が定着した上での話？』とのわだかまりが常に残る。前者社会の上に後者社会が成り立つのか、それとも併行して進んで行くのか？【男女共同参画社会】という言葉が古くなってきたことにより「もう定着しているんじゃないの？何を今頃？」と言う人は本当にそういう社会を理解、実践しているのか疑問符の付く所であり、最も基本的なところを突きたいと考えたのが実施しようと思った理由。今一度、日頃、口にしない男女共同参画を再認識してもらうには、アンコンシャスバイアスというテーマに一極集中して視野が狭くなっている感さえある現状を鑑みると、もっと本源的に生（せい）を受けて次段階としての最小家族単位での男女共同参画社会とはどうあるべきかを問うのがテーマのポイント。

## Q 2

当日の内容はどのようなものですか。

職場とか地域社会との関わりとか色々なしがらみが絡み合うと焦点がぼけて議論も多方面に進み結局得るものが無く、現状を伝え合うのみに留っていたのが今までの会議との認識と反省に基づき狭い生活の範囲での男女共同参画とはどうあるべきかということで、中途では切実な話っぷりや笑い、冗談も入って活発な議論となった。最後にグループ別に発表をしていただいたが、一般的な認識としては生まれた時から男女共同参画社会が言われ続けている世代である子を持つ女性からはその模範となるべきという前向きな発言、また一方で嫁に入ったことから義父・義母に対するいわゆる『気兼ね』（男女共同参画の観点からオカシイと思っても言えない）が妨げになっているとの発言もあり、皆、気づきの多い会議となった。

## &lt;スケジュール&gt;

順序	時期	内容	詳細
1	10月	上原地区地域会議	地区区長会長と表題の件につき実施する方向で協議
2	11月	//	区長会で開催理由説明 開催場所にポスター展示
3	12月	//	参加人数把握・備品、茶用意



## ポイント（工夫した点）

イントロを入れて興味を引く《本題の趣旨とポイントは、ずれているが皆の目を向け会議（参加）脱落者を作らない為》

今回、使用したQ&Aはありきたりではあるが、

Q. 貴方は自分の妻を他人に紹介するとき、何と呼んで紹介するか？

・・・何人かに当ててどう呼ぶかを発表してもらおう・・・

・・・「家内」「奥さん」×・・・「妻」○

人口減少に伴い、家にいた専業主婦にもどんどん社会進出して活躍してもらわねばならない社会になっているにもかかわらず、家内や奥さんは妻を家の中に、家の奥に閉じ込めておく発想であり現代社会にそぐわない（個人的意見として）と思うがどうか？と投げかけ、『私だったら（こう言って紹介する）』ということをやや平易な言動ながら皆に考えてもらおう（冒頭で行うことにより『この会議、いつもの眠い会議とちょっと違う？』と思わせる為）

## やってよかったこと

まず、地区地区に推進員が2名ずつ（入善町の場合）、県から委嘱を受けていることすら知らない

参加者が多い中で自己紹介し【共立ち】（年1回、全戸配布の男女共同参画推進に関する入善町の言わば広報紙）を見せて『そういう地区役員もいるんだ』ということを知ることができたこと。

地区行事は飲み食いが絡むものが多い中で、大脳活性化の観点から『地区にはこんな行事もあるんだ』と認識させることができたこと。

今までの町内の男女共同参画に関する行事は3世代交流とか100才体操とか、『男女共同参画推進とどんな関係があるの？』と疑問を呈せざるをえない行事が主流にあって、本流の会議となったこと。

## 課題・改善点

1. 参加者の大半はその年度の地区役員が多く、『喉元過ぎれば』の感もあり、地区全体に浸透させて行く為には若干の不安が残るので、これを解消するにはどうすれば良いのかが課題。
2. 参加者の男女比率（グループ分け）がうまく行かず、男の視点、女の視点がうまく吸収出来たか不安が残ったこと。
3. あいにく地区には広く遍くPRするにしても適当な場所がなく住民からすればたまたま目にしても『特定の人集まりじゃない？』という認識しか植えつけられないこと。



基本目標Ⅲ

男女共同参画社会の基盤づくり

重点課題9

女性等に対するあらゆる暴力の根絶と生活上の 困難  
への支援



## 概要

1. 開催日時：令和5年8月24日
2. 会場：朝日町役場2階第3会議室
3. 参加者：9人
4. 参加費用：無料

## Q 1

開催の経緯、テーマの選定のポイントを教えてください。

近年、社会全体でハラスメントへの意識が高まっており、たくさんの「〇〇ハラスメント」という言葉が生み出されています。しかし、ハラスメントの名前だけ聞いてもどのようなハラスメントを指しているのかが分からなかったり、それらのハラスメントはどのような発言や行動が該当しているのかが分からないという現状もあり、推進員からは「様々なハラスメントの種類や内容について学びたい」という意見が挙がり、ハラスメントに関する勉強会を実施しようと思いました。

## Q 2

当日の内容はどのようなものですか。

推進員が1番学びたいと感じていることについての勉強会を行おうと思い、勉強会の内容について希望アンケートを行いました。その結果、“ハラスメント”について学びたいという意見が1番多くあったため、勉強会のテーマを“様々なハラスメントについて学ぼう”というテーマ設定にしました。厚生労働省の“あかるい職場応援団”というサイトに掲載されているハラスメントに関する動画から、私たちの身近にある様々なハラスメントに関する動画をいくつか選んで観賞しました。内容は、パパの育児休業ハラスメントやマタニティハラスメント、カスタマーハラスメントなどです。動画鑑賞後は、動画を見て思ったことやハラスメントについて思うこと、実体験などを話すフリーディスカッションを行いました。このフリーディスカッションでは、「動画内では、昔は飛び交っていた言葉がたくさんあった。」、「ハラスメントに慣れてしまい、ハラスメントだということに気づいていなかった。」、「周りから見て大したことがない発言でも、本人がストレスだと感じるようなことであればハラスメントになってしまうので難しい。」などの意見が出ました。推進員一人ひとりがハラスメントとは何かを学び、考えることができた勉強会になりました。

●声を上げないことがハラスメント「声を上げよう」

●動画で学ぼう「パパの育児休業取得等ハラスメントの実態



## 出典

ハラスメント裁判事例、他社の取組などハラスメント対策の総合情報サイト  
あかるい職場応援 (<https://www.noharassment.mhlw.go.jp/movie/index>)

## <スケジュール>

順序	時期	内容	詳細
1	5月	定例会	令和4年度の活動実績報告 令和5年度の活動計画について協議
2	6月	定例会	富山県男女共同参画推進員全体研修会の講演について意見交換 令和5年度の活動計画について協議
3	8月	勉強会	様々なハラスメントに関する動画鑑賞 フリーディスカッション
4	10月	定例会	あさひ生涯学習フェスティバルの展示内容について協議
5	2月	定例会	広報誌チャレンジの掲載内容について協議

## ポイント（工夫した点）

- ・ 推進員の学びたいことにフォーカスしたテーマ設定を行った。
- ・ 身近に存在するハラスメントを取り上げた。
- ・ 動画を観賞して終わりではなく、推進員同士で意見交換を行った。

## やってよかったこと

- ・ 推進員のハラスメントに対する意識向上が図られたこと
- ・ 意見交換を行ったことで、様々な視点でのハラスメントに対する感じ方を共有できたこと
- ・ 様々なハラスメントがあることを学ぶことができたこと
- ・ どのような発言や行動がハラスメントに該当するのかを学ぶことができたこと

## 課題・改善点

- ・ 勉強会で取り上げたハラスメントの他にもたくさんのハラスメントが存在しているため、定期的にハラスメントに関する勉強会を行っていくこと。
- ・ 推進員だけでなく、町全体のハラスメントに対する意識の向上を図っていくこと。

基本目標Ⅲ

男女共同参画社会の基盤づくり

重点課題11

男女共同参画の視点に立った防災対策

## 概要

1. 開催日時：令和5年8月5日（土）10:00～11:30
2. 会場：高岡市男女平等推進センター会議室
3. 参加者：10名
4. 講師：大坪久美子氏（NPO法人Nプロジェクトひと・みち・まち 理事長）
5. 参加費用：無料

## Q1 開催の経緯、テーマの選定のポイントを教えてください。

近年、地震や大雨等で大規模災害等が頻繁に発生し、地域における防災力が重要となってきています。特に地域に暮らす多様な人々に配慮した避難所運営にはまだまだ課題が多くあります。高岡連絡会として、地域防災に主眼を置き、かつ、推進員自身が学んだことや気づいたことを今後の活動に活かし、実践できるようにとの思いを込め、今回の自主研修会を企画開催したところです。



## Q2 当日の内容はどのようなものですか。

推進員の参加人数は10人と少なかったが、その分、充実した研修内容となりました。特に、日頃から災害に備え、地域でみんなの力を活かし、協力・活動する機会を設けることで、仮に災害が起きなかったとしても、地域がより良い地域となるといった、いわゆる、「地域防災＝地域づくり」であること、また、みんなの力を活かすことは、すなわち、老若男女共同参画をすることであることを再認識する機会となりました。

併せて、今後、地域防災力を高めるために推進員として何をなすべきかといった視点でワークショップを行い、その中で、各地域で、地域防災をテーマとしたミニ地区懇談会の開催を行ったり、地域の各種団体・組織に対し、防災の観点も踏まえ、性別や立場に関わらず、多様な人材の活用の必要性を訴えていくことが大切であるといった意欲的な提案等もなされ、大変意義のある研修となりました。

## <スケジュール>

順序	時期	内容	詳細
1	3月	役員会（次年度事業計画案策定）	男女共同参画の視点からみた地域防災の自主研修会の提案 講師候補の提案
2	5月	総会	地域防災をテーマとした自主研修会実施計画を承認
3	6月	講師打ち合わせ	実施内容、日時、場所、今後のスケジュール、費用について決定
4	7月	推進員へ案内 講師打ち合わせ	各推進員へ開催案内を送付 講師と実施内容等について随時メールで打ち合わせ
5	8月	当日	研修会開催

## ポイント（工夫した点）

- ・公共交通機関の利便性の高い高岡駅前に立地する当高岡市男女平等推進センター（ウイング・ウイング高岡）を会場とし、車以外をご利用の方も参加しやすいように配慮した。
- ・ワークショップでは、性別や年代を超えて意見交換ができるよう、性別や年代が偏らないグループ分けを行った。
- ・講義だけでなくワークショップを加えることで防災への取り組みの必要性や課題を自分事として考え、また、他の推進員と共有できる機会とした。

## やってよかったこと

- ・男女共同参画の感覚に優れ、また女性視点での地域防災に精通しておられるNPO法人Nプロジェクトひと・みち・まちに講師をお引き受けいただいたことで、地域防災の知識だけでなく、男女共同参画推進員としての自覚や地域での役割についても学ぶことができたことはたいへん有意義であった。

## 課題・改善点

- ・開催を8月としたため、長期休暇中のお子さんをもつ推進員の方の参加が難しくなった。時期について、配慮が必要であった。
- ・せっかく自主研修会を行い、地域防災への理解を深めたため、その知識を地域へ広めることができるようなステップアップがあれば、なお効果的なものとなったと思われる。

